



平成 20 年 10 月 29 日

各 位

会社名 宇部興産株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 田村浩章  
 (コード番号 4208 東証第1部・福証)  
 問合せ先 IR広報部長 坂本靖子  
 (TEL. 03-5419-6110)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年 5 月 9 日に発表しました平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)、及び平成 21 年 3 月期通期業績予想 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日) を下記の通り修正いたします。

#### 記

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正  
 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日)

##### (1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 20 年 5 月 9 日発表)	百万円 368,000	百万円 21,000	百万円 16,500	百万円 9,000	円 銭 8 95
今回修正予想(B)	372,100	27,100	23,500	14,400	14 32
増減額(B-A)	4,100	6,100	7,000	5,400	—
増減率(%)	1.1	29.0	42.4	60.0	—
前期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	335,051	22,243	18,654	7,802	7 75

##### (2) 個別

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 20 年 5 月 9 日発表)	百万円 173,000	百万円 9,500	百万円 9,000	百万円 6,500	円 銭 6 45
今回修正予想(B)	181,900	14,900	15,000	9,800	9 72
増減額(B-A)	8,900	5,400	6,000	3,300	—
増減率(%)	5.1	56.8	66.7	50.8	—
前期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	158,557	10,777	10,685	4,809	4 77

##### (修正の理由)

第 2 四半期累計期間については、原燃料価格の高騰が続きましたが、販売価格への転嫁を押し進めた結果、化成品・樹脂セグメントにおいて良好な需給バランスを背景にスプレッド (製品価格と原料価格の値差) が維持できたことや、エネルギー・環境セグメントにおいて一般炭の需給逼迫を背景に販売炭、預り炭の取扱い数量が増えたことなどにより、連結・個別ともに期初予想を上回る見込です。

## 2. 平成 21 年 3 月期通期業績予想数値の修正

(平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

### (1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 5 月 9 日発表)	百万円 766,000	百万円 53,000	百万円 44,000	百万円 25,000	円 銭 24 85
今回修正予想 (B)	769,000	53,000	44,000	25,000	24 85
増減額 (B-A)	3,000	0	0	0	—
増減率 (%)	0.4	0.0	0.0	0.0	—
前期実績 (平成 20 年 3 月期)	704,284	55,900	46,707	24,031	23 88

### (2) 個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 20 年 5 月 9 日発表)	百万円 361,000	百万円 23,500	百万円 19,500	百万円 13,000	円 銭 12 90
今回修正予想 (B)	376,000	28,000	24,500	16,000	15 88
増減額 (B-A)	15,000	4,500	5,000	3,000	—
増減率 (%)	4.2	19.1	25.6	23.1	—
前期実績 (平成 20 年 3 月期)	329,520	26,397	21,942	8,899	8 83

### (修正の理由)

連結業績予想については、第 2 四半期累計期間までの売上高、利益の上振れはあるものの、世界経済の減速と、原油をはじめとする市況急落に伴う原料価格の先安感から、化成品・樹脂セグメントにおいて 9 月以降ナイロン原料のカプロラクタム需要が急減したため海外子会社を中心に減産に入っており、需要回復には一定の時間を要することが予想されます。また、自動車販売台数や建設などの需要動向、原燃料価格、為替など不透明感が増していることから、期初の利益予想を据え置きます。

個別業績予想については、第 2 四半期累計期間までの化成品・樹脂セグメント、及びエネルギー・環境セグメントでの売上高、利益の上振れにより、期初予想を上回る見込です。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、最終の業績は今後様々な要因によって予想と異なる可能性があります。

以 上